講壇点滴

福音を知らせながら

使徒言行録八章一～一三節

牧師　姜　徑　米

ステファノの殉教をきっかけにして、エルサレムの町で、イエスを信じている人を捕まえて殺してしまおうという大きな騒ぎが起こりました。教会に集まっていた人たちは、エルサレムにいることができなくなって、逃げ出さなければならなくなったのです。せっかく順調に成長してきた教会が、散り散りになってしまったのです。

でも、それで教会はなくなってはしまいませんでした。四節にあるように、エルサレムからあちこちに散らされていった人たちは、行った先々で、「福音を告げ知らせ」たのです。

さて、エルサレムから散らされていった人々の中に、フィリポという人がいました。この人が、サマリアの町でイエス・キリストのことを伝えました。サマリアはユダヤ人にとって複雑な思いの地域です。サマリア人はユダヤ人と異邦人の混血民族で、民族の純血を失った、堕落した民です。

しかし、フィリポはそのサマリアで伝道をし、主イエスこそ神様の民に約束されていた救い主であると宣べ伝えました。そしてそれを信じる信仰者の群れが生まれました。それは単に信仰が他の地域にも広がったということではありません。聖霊が共に働いてくださったので、町の人たちはとても喜んで彼の語る主イエスのお話しを聞くようになったのです。

主イエスの福音は人間的な隔てを乗り越えるものであるはずだという確信が彼の中にありました。フィリポは、ユダヤ人とサマリア人を隔て、差別するような思いから解放されて、ユダヤ人だけが神様の民であるとする民族主義的な感覚から自由になり、主イエスによる救いの恵みが、サマリア人にも与えられることを信じていたのです。

このフィリポは二六節以下では、異邦人に伝道し、洗礼を授けていきます。使徒言行録の八章は、このフィリポの伝道を語ることによって、主イエスの福音が、エルサレムから他の地域へ、ユダヤ人からサマリア人へ、そして異邦人へ告げ広められていく、その最初の一歩を語っているのです。それは実は主イエスが予告しておられたことの実現でもあります。一章八節で、主イエスはこう言っておられました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」。

この主イエスのみ言葉がフィリポの働きによって実現し始めているのです。さらに言えば、七章の終わりと、八章の一節に、サウロの名前が出て来ることもこのことと関係があります。このサウロこそ、後の大伝道者パウロ、異邦人の使徒と呼ばれ、異邦人たちに主イエスの福音を宣べ伝えていくための中心的な働きをした人です。パウロこそ、フィリポがここで始めた働きを受け継ぎ、完成させていくのです。

（四月二八日　公同礼拝）

五月講壇一覧

第一主日（五月五日）　公同礼拝
「恵みを殺す思い」　高橋和人牧師
詩編　一一八・二二～二九
マタイ　二一・三三～四六

第二主日（五月一二日）　公同礼拝
「招かれ、選ばれる」　高橋和人牧師
イザヤ　六四・五～一一
マタイ　二二・一～一四

第三主日（五月一九日）　ペンテコステ礼拝
「この霊を知っている」　高橋和人牧師
エゼキエル　三六・二五～二八
ヨハネ　一四・一五～二六

第四主日（五月二六日）　公同礼拝
「フィリポのサマリア伝道」　姜　徑米牧師
詩編　一一七・一～二
使徒言行録　八・一四～二五

第二主日（四月一四日）　公同礼拝
「主の問う権威」　高橋和人牧師
申命記　一六・一八～二〇
マタイ　二一・二三～二七

第三主日（四月二一日）　公同礼拝
「義の道への答え」　高橋和人牧師
詩編　一二五・一～五
マタイ　二一・二八～三二

第四主日（四月二八日）　公同礼拝
「福音を知らせながら」　姜　徑米牧師
詩編　一二四・八
使徒言行録　八・一～一三